

自殺者0人の社会を目指して part.2

市川市で毎年80人の人が自殺で亡くなっています。このままの状態であれば、今年も来年も80人の人が自ら命を絶ちます。特別な人たちが、特別な理由で、自殺しているわけではありません。私たちと同じ日常を生きている人たちが、過労や多重債務、いじめや介護疲れ、DVや差別や社会に対する不信感等、様々な社会問題に追い詰められた末に、生きる道を閉ざされて「自殺」で亡くなっているのです。大前提として「人の命」を守る事が、政治家の仕事だと思えます。失わなくて良いはずの命が、多く失われていってしまっているのは、政治や行政が正しく機能していないからだと思えます。そんな現状を歯痒く思っています。

vol.14 までに、自殺者を減らす一因になる施策を提案してきました。今回は直接的なアプローチ方法を提案します。警察は「自殺統計原票」を持っています。それには、市川市の自殺者の具体的な年齢・性別・住所・自殺場所・職業・未遂歴・同居人・要因等が記述されています。私は「毎年ばらつきなく80人が自殺している現状であれば、自殺の原因や背景に規則性がある。」という仮説を持っています。「自殺統計原票」を基に、分析をし、市川市独自の対策をたてる事が肝要です。今までのように、全国画一的な対策を行うだけでは効果が薄いです。その上で「自殺者を減らす事は可能かも知れないが0人にする事は不可能だ。」と多々指摘されますが、私は違う考えです。紙面の都合もありますので、5月以降改めてその解決方法を提案します。自殺者の方は、死にたくて死んでいる訳ではないのです。抱えている問題が重いから、逃れたいから死んでいくのです。生きるための支援をしたいです。誰も自殺に追い詰められる事のない社会。それはきっと、自殺とは無関係と思っているひとりひとりとっても生きていて心地の良い社会であるはず。これが私の「最も」実現したい社会です。みなさんで「今後も住み続けてみたい市川市」を思い描き、話し合ってみてください。個々人の想いが集まっていけば、良い社会、街が形成されると信じています。今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ！

平成23年3月10日

増田好秀